

「人の子が来る」

2022年05月20日

「それらの日には、このような苦難の後／太陽は暗くなり／月は光を放たず／星は天から落ち／天の諸力は揺り動かされる。その時、人の子が大いなる力と栄光を帯びて雲に乗って来るのを、人々は見る。その時、人の子は天使たちを遣わし、地の果てから天の果てまで、選ばれた者を四方から呼び集める。」（マルコ福音書13章24節～27節）

主イエスのエルサレム神殿の崩壊を予告した言葉に驚いた弟子たちは、それは何時で、どんな徴がありますかと問うた。弟子たちは、神殿崩壊は終末の時であると思って、質問したのである。主イエスは、その問いに答えられた。国と国は敵対し、戦争が起こり、地震と飢饉がある。肉親同志が争い、殺し合いになる。今までに経験したこのないような苦難が襲う。その中で、メシアを名乗る者が現れ、不思議なしるしをもって、従うように誘う。あなたがたは迫害を受けるが、総督や王たちの前で、福音を証しすることになる。しかし、語るべき言葉は聖霊が示してくださる。最後まで耐え忍ぶ者は救われる、と。終末時の徴は、混乱と苦悩が渦巻き、生きている現在のような様相であると語られ、不安と恐怖に惑わされることなく、最後の時に備えるようにと答えられた。

そして、いよいよ終末が到来する。それはまず、「それらの日には、このような苦難の後／太陽は暗くなり／月は光を放たず／星は天から落ち／天の諸力は揺り動かされる。」経験したことのないような苦難の後、太陽は暗く、月は光を失い、星が天から落ちる。典型的な黙示文学的な表現である。この現象を「天の諸力は揺り動かされる」と言っている。天には諸々の力が充満している。それは、宇宙的な悪霊の反神的な勢力もあり、神の意志を貫く天使の軍団もあろう。それらが揺り動かされて、天の諸力の支配の終わりの時となる。古い時代が終わって新しい時代、神が支配する終末を迎える。

「その時、人の子が大いなる力と栄光を帯びて雲に乗って来るのを、人々は見る。その時、人の子は天使たちを遣わし、地の果てから天の果てまで、選ばれた者を四方から呼び集める。」これは、ダニエルが全き救いが実現した時の幻の様相を著した言葉である。

「私は夜の幻を見ていた。見よ、人の子のような者が／天の雲に乗って来て／日の老いたる者のところに着き／その前に導かれた。この方に支配権、栄誉、王権が与えられ／諸民族、諸国民、諸言語の者たちすべては／この方に仕える。その支配は永遠の支配で、過ぎ去ることなく／その統治は滅びることがない（ダニエル7:13～14）。」ダニエルは、紀元前2世紀、シリアのアンティオコス四世エピファネスによる大迫害の中で、神による勝利の幻を歌ったのであろう。神に全権を委ねられた人の子が、永遠の平和支配を確立すると表現している。新約聖書は、人の子を主イエスと捉え、主イエスの再臨による終末を待ち望む信仰を確立している。新約聖書の終わり『ヨハネの黙示録』は「これらのことを証しする方が言われる。『然り、私はすぐに来る。』アーメン、主イエスよ、来りませ。主イエスの恵みがあなたがたすべての者と共にあるように」と、人の子イエスの再臨を望む言葉で終わっている。主イエスが、筋斗雲に乗る孫悟空のように来る訳ではない。世を始められた神は、力と栄光に満ちた人の子イエスによって、終わりの完結をもたらしてくださる。その時、天使たちを遣わし、地の果てから天の果てまで、選ばれた者を四方から呼び集め、神の国に迎えてくださる。これを信じるから、今の苦難に耐え、大いなる楽観と希望を持って生きることができる。世の終わりを待ち望む終末信仰のないキリスト教はあり得ない。